

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	通級指導教室推進事業			事業番号	09-105
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	宮林 英樹	教育指導課教育センター	本多 由佳里	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	1	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	通級指導教室推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成2年度	～	終了年度	-
関連法令等	学校教育法施行規則第140条・第141条				
国・県の計画等	教育振興基本計画(第2期計画)			計画期間	平成25年度～平成29年度
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画(後期)			計画期間	平成25年度～平成29年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	小学校の通常の学級に在籍する児童で、主に発達障害のある児童や言語障害のある児童の学びの場の1つとして、通級による指導が有効です。また、通級による指導の効果が認められ、指導に対する理解が深まるにつれて、入級を希望する児童や保護者が増加しています。				
目的 (何をどうしたいのか)	集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が、学校生活に適應することができるよう、通級指導教室「まなびの教室」「ことばの教室」を設置して、児童・保護者並びに児童が在籍する学校を支援します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	通常の学級に在籍する児童で、通級による指導が必要な児童。				
事業内容 (手段、手法など)	・通級指導教室への円滑な入級・退級のためのシステムを改善しながら運用し、通級指導教室の運営と指導等の充実を図ります。 ・支援を必要とする児童へのよりよい指導のために教職員の研修の充実を図ります。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	「まなびの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室2カ所		
	「ことばの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室2カ所		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	「まなびの教室」の受入可能児童数	24人	28人	29人	

 事業実施 (Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	個別に支援が必要な児童・生徒が増加傾向にある中、早期発見・早期対応が可能な支援体制の構築が重要です。そこで、「まなびの教室」を1箇所増設し、受入体制の充実を図ります。児童の実態を把握し的確な目標設定を行い、入退級を適切に見極め、ニーズのある児童が指導を受けられるよう、現在あるシステムの改善を図っていきます。			
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外			
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容	
実施結果	項目	年度		
		28年度	29年度	
	「まなびの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室3カ所	
	「ことばの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室2カ所	
実施した取組の内容	通級指導教室推進委員会を開催し、入退級について審議を行いました。必要な教材・教具を効果的に購入するとともに、使用機器の点検整備を実施し、担当教員の指導が行いやすいように環境整備を図りました。また、「まなびの教室」を1教室増設し、通級指導の充実を図りました。			
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度	
			28年度	29年度
	「まなびの教室」の受入可能児童数	24人	29人	38人

コスト	年度		28年度 実績				29年度 実績				
	事業費合計 (a)			364	千円		1,121	千円			
内訳	国県支出金 ①			0	千円		0	千円			
	地方債 ②			0	千円		0	千円			
	その他特財 ③			0	千円		0	千円			
	一般財源 (a)-①-②-③			364	千円		1,121	千円			
国県支出金の内容											
その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期						
	その他										
人件費	正規職員		0.19	人	1,644	千円	0.22	人	1,921	千円	
	その他の職員		0.00	人	0	千円	0.00	人	0	千円	
	人件費合計 (b)		0.19	人	1,644	千円	0.22	人	1,921	千円	
トータルコスト (a)+(b)					2,008	千円			3,042	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	通級のべ児童数				単位	通級のべ児童数			
		対象数		57	人		65	人			
	総事業費 / 対象数			35,228	円		46,800	円			

評価 (Check)へ

評 価 (Check)

<p>進捗状況 〔選択・記入〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)</p>	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>「まなびの教室」を増設し、支援を必要としている児童を受け入れることができました。</p>
<p>実施水準 〔選択・記入〕</p>	<p><input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業</p>	<p align="center">B</p>	<p>他都市の事業内容等</p>	<p>近年、近隣市では通級の利便性などから、複数校に通級指導教室を設置したり、対象を中学生に広げたりしています。本市においても、複数箇所の設置や対象の拡大などについて、検討していく必要があります。</p>
<p>有効性 〔選択・記入〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)</p>	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>通級による指導により、集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が、学校生活に適應することができるよう、児童の主訴の改善が見られ、学校生活をスムーズに送れるようになっています。</p>
<p>効率性 〔選択・記入〕</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)</p>	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>児童の実態を的確に把握し、入退級の見極めを行うことにより、多くの児童を受け入れられるように努めました。</p>

 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)

<p>事業推進上の課題</p>	<p>潜在的ニーズのある児童が増加しているなか、受入れ人数に限りがあることが課題となっています。中学校入学後も支援を必要としている生徒への対応が十分ではないことも課題です。</p>
<p>次年度以降の取組の方向性</p>	<p>「まなびの教室」については、2カ所目の設置と運営について検討し、個別に支援が必要な児童生徒への早期発見・早期対応に努めます。</p>
<p>所管部長による総評</p>	<p>現在は小学生を対象としていますが、中学生にもニーズがあることから発達の段階に応じた指導体制を検討していく必要があります。 通級指導は、有効性は高く、今後も推進すべきと判断します。</p>